

■ 第 1 回策定委員会 各委員の意見と対応

No	項目	意見	対応
1	現状と課題 「安全・安心」	(委員) ・南海トラフ地震だけでなく、より日常的な脅威として「熱中症」への対策という視点も必要ではないか。 ・アンケートの満足度・重要度分析で公園の重要度が低い、どう解釈しているか。子育て世代の重要度も低い結果となっている。	・施策への反映を検討【素案 P3 10～11 行目】 ・アンケートの満足度・重要度分析を各項目同じ数値軸で再評価。【素案 P3 及び 6】
2	現況と課題 「安全・安心」	(委員) ・耐震改修が進まない理由を「資金がないから耐震改修をしない」と結論づけているようだが、耐震化に対する「認識の低さ」も大きな要因ではないか。 ・私どもの事業で、水回り設備の改修依頼は多、建物の構造に関するご相談は比較的少ない。一概に費用の問題とするのではなく、市民の意識の問題が大きいのではないかと。市が推進している簡易診断の利用者が少ないことも、その裏付けだと思う。	・課題の整理において、耐震改修が進まない原因に、市民の認識の低さについても考慮。 【素案 P3 14～15 行目】
3	現況と課題 「安全・安心」 (耐震化)	(委員) ・淡路地域は耐震化率が低い。能登半島地震の教訓からも向上は急務だ。県の補助制度が知られていない、あるいは重要性の認識が低い問題があり、一層の意識啓発と分かりやすい周知が必要である。	・施策への反映を検討(周知・意識啓発の推進 など) 【素案 P11 5～6 行目】
4	現況と課題 「安全・安心」 (耐震化)	(委員) ・淡路の伝統的な民家は特殊な構造が多く、正確な評価が難しい。 ・診断依頼は地震直後に集中し関心が続かない。耐震改修工事は大工事になるため、改修工事にまで繋がるケースは稀である。 ・市町村合併の経緯から、新耐震基準の線引きだけでは耐震性に不安のある建物を網羅できていない可能性があり、制度の実態に即した見直しが必要だ。	・施策への反映を検討(耐震改修の補助対象の拡充や耐震シェルターやベッドの導入支援 など) 【素案 P11 6～7 行目、9～10 行目】

No	項目	意見	対応
5	現況と課題 「安全・安心」 (交通安全)	(委員) ・市が拡幅した道路で、車庫証明が不要な軽自動車による迷惑駐車が行き、救急活動の妨げになっている。対策を講じるべき。	・施策への反映を検討【素案 P12】
6	現況と課題 「安全・安心」	(委員) ・災害時の避難について、沼島の事例のように、指定避難場所が遠かったり、より近いヘリポート等に避難しても日陰がないなど、経路や設備に課題があることが分かった。津波だけでなく浸水に強い住宅の普及も計画に盛り込むべき。 ・空き家は空き巣や放火といった犯罪の温床となり地域の治安を悪化させる。 ・リゾート化に伴い、民泊での騒音など住民トラブルが増加している。 ・夜間の街灯が少なく危険。防犯カメラは犯罪の検挙・抑止に絶大な効果があるため、設置を強力に進めてほしい。	・施策への反映を検討【素案 P12】 ・施策への反映を検討【素案 P14】 ・施策への反映を検討【素案 P14】
7	現況と課題 「安全・安心」 (防犯カメラ)	(委員) ・防犯カメラの設置を強く要望する。市として県へより積極的に働きかけてほしい。	・施策への反映を検討【素案 P14】
8	現況と課題 「安全・安心」	(委員) ・夜間景観計画など、夜の活動や活用を視野に入れた議論もすべき。	・施策への反映を検討（防犯灯整備）【素案 P14】
9	現況と課題 「持続・循環」	(委員) ・キーワードに「気候変動問題」が挙げられているが、具体的な温暖化対策に関する記述がほとんど見られない。アンケートに関連する設問がなかった。この記述が現状を正確に反映しているのか、疑問。	・課題の整理において、気候変動問題に関する記述を追記。【素案 P7 24-25 行目】 ・施策への反映を検討【素案 P16 5-6 行目】

No	項目	意見	対応
10	現況と課題 「安全・安心」 (住宅確保要配慮者)	(委員) ・住宅確保要配慮者への支援は民間の努力に限界があり、公営住宅が担うべきである。真に困窮している方へ供給されるよう、定期借家契約の導入など明確な退去時期の設定も検討すべきである。	・施策への反映を検討 (市営住宅の入居の適正化推進 など) 【素案 P17 市営住宅の供給・維持管理】
11	現況と課題 「安全・安心」 (住宅確保要配慮者)	(委員) ・母子世帯からは家賃負担が大きいという声が常に寄せられる。公営住宅への入居希望と民間の空き家増加というミスマッチを解消するため、良質な民間賃貸住宅の掘り起こしやマッチング事例の共有が有効ではないか。	・施策への反映を検討 (住宅部局と福祉部局の連携) 【素案 P17-18 重層的支援体制整備事業】
12	現況と課題 「魅力・挑戦」	(委員) ・湊地区では公園を望む声が多い一方、管理が行き届いていない公園もある。市職員が常駐する公共施設に併設した公園の整備やメンテナンスフリーな広場としての整備など、管理負担も考えたメリハリのあるオープンスペースのあり方が重要である。	・施策への反映を検討 【素案 P26】
13	現況と課題 「魅力・挑戦」 (公園管理)	(委員) ・地域の公園は高齢化により住民の力で管理することが難しくなっており、行政の支援が必要である。	・施策への反映を検討 【素案 P26】
14	現況と課題 「魅力・挑戦」 (まちづくり)	(委員) ・人口減少の中で「誰がこの町に住むのか」という視点が最も重要。住宅政策はまちづくり全体のビジョンと切り離せない。 ・住宅需要創出には交通インフラ整備が不可欠。10 年後を見据え、自動運転バスのような未来像を描き、国や県に働きかける戦略的視点が必要である。	・施策への反映を検討 (対象を明確にした施策の展開) 【素案 P23 など】 ・施策への反映を検討 【素案 P28】

No	項目	意見	対応
15	現況と課題 「魅力・挑戦」 (高齢期の暮らし)	(委員) ・高齢になり車の運転が難しくなった時を想像すると、交通の便が良く、病院や商業施設にアクセスできる環境が不可欠だと感じる。	・施策への反映を検討 (コミュニティ交通の維持・拡充 など) 【素案 P28-29】
16	現況と課題 「持続・循環」 (情報インフラ)	(委員) ・現代の生活インフラとしてインターネット環境の整備状況も、現状把握として調査すべき項目であったと思う。	・インターネット等の普及状況に関して、可能な限り情報を収集。
17	現況と課題 「持続・循環」 (空き家対策)	(委員) ・空き家問題は「利活用」だけでなく「除去」に重点を置くべきだ。解体を躊躇する最大の理由は固定資産税の増額であり、解体後の土地への税軽減など大胆なインセンティブが必要である。	・施策への反映を検討 【素案 P35】
18	現況と課題 「持続・循環」 (空き家対策)	(委員) ・空き家問題の根源は、固定資産税である。空き家除却後の土地の税を下げるなど、行政が決断しなければ解決しない。	・施策への反映を検討 【素案 P35】
19	計画全般	(委員) ・骨子案は理念の提示に留まっている。他市の計画のように、より具体的な数値目標を掲げるべきではないか。 ・施策目標として、市内の防犯カメラのネットワーク化や避難所となる体育館への空調設置などを具体的に検討すべきである。	・第2回・第3回委員会で提示 ・施策への反映を検討 【素案 P12 など】
20	計画全般	(委員) ・計画期間が10年と長期だが、期間中の進捗管理や評価はどのように考えているか。 ・仕事で関わる高齢者の多くは、自分自身の将来の「住まい」について、なかなか真剣に向き合えていないと感じる。計画を通じて、市民一人ひとりが自分のこととして住環境を考えることの大切さを、メッセージ性を持って伝えていくことが重要である。	・国の動向や総合計画と照らし合わせながら、見直しの可否を判断する。 ・「第5章 計画の実現に向けて」への反映を検討